

銀賞

今日も一日ゼロ災でいこうヨシ！

トヨタ自動車東日本株式会社 宮城大和工場

山本 樹来

私が所属する職場では、無災害記録が五千日を超え、現在も記録更新中である。

「今日も一日ゼロ災でいこうヨシ！」

毎日朝礼で言うので言葉の重みを忘れそうだが、本当にその通り。災害がないことは幸せなのだと思全歴四年目の私は思う。

工場創立二五周年記念のイベントで、従業員の家族向け工場見学会が行われた。車で片道五百キロ離れた田舎にいる両親を誘ってみた。

「絶対行く！」

と即答。恥ずかしさもあったが嬉しかった。当日は勤務時間が違うから会えないと伝えたが、それは嘘。自分の仕事内容を知ってどんな反応をするか楽しみだったからだ。職場紹介の動画に私の作業風景が映った。それを見た両親は泣いていた。徐々に私の視界も潤う。動画の内容は、大して難しい作業をしていたわけではないが、しっかり仕事をし、成長した姿を見ることができて、親としては嬉しかったのだと思う。

遠くからでも支えてくれる人がいる以上、悲しい思いはさせたくはない。保全業務は、いつも危険と隣り合わせ。危険が目の前にある中、自らの行動で自身や仲間を危険から遠ざけ、安全を確保していく必要がある。

安全確保の手段の一つとして、ロックアウトがある。第三者に設備を操作されないように動力遮断装置に南京錠をかける。先日、このロックアウトをせず、設備内に入り災害が発生した。一歩間違えれば、命がなかった場面だったらしい。明日は我が身。自身の行動で不安全なところはないか確認した。自身では気が付かなかったが、直すべき部分があると先輩から指摘をいただいた。それは、作業中に周囲の確認が足りていないこと。このことを教えていただいたときは、大きな問題として捉えていなかったが、のちに気が付くことになった。

とある日の故障対応中、先輩方の作業スピードについていかなければいけないという気持ちから、焦りが生じていた。

「図面取ってくれる？」

先輩からの指示にすぐさま返事し、設備間から図面がある場所へ向かう。すると、設備裏を通っている無人搬送機が、自身の一メートル前を横切った。

「危ない！」

焦りから視野が狭くなり、周囲の音にも気が付かなくなっていて、搬送機の存在を認識していなかった。たかが一メートル前だったが、認識できていない範囲から出てきたことには驚き、先輩から何を持ってこいと言われたか忘れるほどだった。

先輩の言った通り、周囲の確認が足りていなかった。自身の、一つの物事に集中して取り組む性格が悪さをした。裏を返せば、視野が狭くなる性格でもある。一秒早く向かっていたら衝突していた、もう少し早く歩いていたら衝突していた。その日は深く反省した。以降、作業中でも心を落ち着かせるために深呼吸をする時間を自身で設けるようにしている。

自身では安全だと思っていることでも、周りからはそう思えないことが多くある。自身の意見だけでは身を守れない。慢心せず、意見を求め、安全とは何か、日々追求していく必要がある。職場で行っている危険予知トレーニングだけではなく、個人でも、その人その人に沿った安全意識の向上が必要であると思っている。

危険とは隣り合わせ。そこから離れるにはどうすべきか、何が大事か考えるきっかけになり、一つでも多く災害が減ってほしいと願う。そして、心から全力で唱和しよう。

「今日も一日ゼロ災でいこうヨシ！」